

# 原子力空母の母港化を阻止する三浦半島連絡会

## 阻止連ニュース NO.1288

2012年9月17日  
TEL・FAX 046-856-8714  
携帯090-1995-7599

### 自衛隊基地を主会場にした「ビッグレスキューかながわ」パート③

三浦半島活断層群を震源に震度6強の地震発生を想定しながら、原子力空母をはじめとした米原子力艦船による原子力災害の大規模な訓練をなぜ県も横須賀市しなかったのか、その不自然さを横須賀市民に説明すべきだ

### 106機関が総合防災訓練

横須賀で県と市 医療支援初動強化へ  
自衛隊 米軍も参加

県と横須賀市の総合防災、消防、医療機関など、約106機関の約1000人が参加し、約200人が観望した。大災害後の医療を主会場に行われた。支援で初動体制強化を自衛隊や在日米軍、警備隊が協力し、目的とした訓練を行った。

午前10時、三浦半島断層群を震源としたマグニチュード7.2、震度6強の地震が発生し、大災害後の医療を主会場に行われた。支援で初動体制強化を自衛隊や在日米軍、警備隊が協力し、目的とした訓練を行った。

午前10時、三浦半島断層群を震源としたマグニチュード7.2、震度6強の地震が発生し、大災害後の医療を主会場に行われた。支援で初動体制強化を自衛隊や在日米軍、警備隊が協力し、目的とした訓練を行った。

訓練を交えながら軽症の負傷者にトリアージを実施する訓練を行う米海軍の医療チーム—横須賀市の陸上自衛隊武山駐屯地で

毎日 17日

昨日、武山駐屯地で実施された「ビッグレスキューかながわ」について、今日の朝刊で紹介したのは、神奈川、朝日、毎日、読売などで、その多くが106機関から1000人以上もの人々が訓練に参加し、自衛隊と米軍も参加した大規模な総合防災訓練であったと伝えている。批判的論調や提案的な解説もなかった。「しんぶん赤旗」は「自治体協役の防災訓練」と批判的な論調で紹介した。

三浦半島断層群を震源にマグニチュード7.2、震度6強の地震を想定した今回の訓練、米軍も参加しながら、しかも訓練の主会場は武山駐屯地なのに一切、原子力防災訓練がなかったのはなぜだろうか、この点の「不自然さ」を各マスコミは感じないのだろうか。主催者の神奈川県や横須賀市に問いかけもしないのだろうか。

今朝の神奈川新聞は国の中央防災会議が東京電力福島第1原発の事故を受けて防災基本計画を修正したことを取りあげて、「寝た子を起こす」議論を というタイトルで社説を掲げていた。その神奈川新聞も昨日の訓練についての「不自然さ」を指摘することはしなかった。米軍の「寝た子を起こす」と避けたのか、県も横須賀市も「米原子力艦船の原子力災害は起きない」と思っているのか。

### 震災時の救急強化

県・横須賀市が合同訓練

大規模災害発生時の救急医療活動の強化などを目的とした県・横須賀市合同総合防災訓練（ビッグレスキューかながわ）が16日、同市の陸上自衛隊武山駐屯地を主会場に計9会場で開催され、警察、消防、自衛隊、在日米軍など106機関から計約1000人が参加した。

訓練は、三浦半島断層群の深さ20%を震源としたマグニチュード7.2の地震が発生、横須賀市は震度6強で、倒壊家屋の周辺に多数の負傷者がいるとの想定で行われた。

応急救護所には、治療の優先順位を示す「トリアージタグ」を首に掛けた負傷者役の市民や高校生が次々に運び込まれ、県内外の災害派遣医療チームや日本赤十字社、陸自、海自、在日米陸、海軍の医療班などが治療にあたった。視察した黒岩知事は「課題を整理し、できるだけ早く各団体の中で生かしたい」と話していた。

読売（横須賀版）17日